



宮城県地域共生社会推進会議（以下「本会議」という。）は、令和4年2月に宮城県と本会が共同して立ち上げたプラットフォームで、6回目の開催となる今回は、基調講演及び取組事例を通じて「孤独・孤立対策の推進及び対策に必要な分野を超えた連携・協働」に向けた機運を醸成させることを目的に令和6年12月24日に開催しました。

概要説明

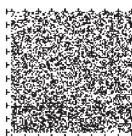
はじめに本会議の会長である村井嘉浩宮城県知事（代理・武田保健福祉部副部長）から挨拶を行い、次いで、宮城県保健福祉部社会福祉課の相原課長から「孤独・孤立対策推進法の概要について」と題して、概要説明を行いました。

主な内容

相原 幹司氏

社会構造の変化に伴い、単身世帯の増加や働き方の多様化、コロナ禍による社会環境の変化などにより、人と人とのつながりの希薄化や孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化するなど、誰もが孤独・孤立に陥りやすい状況になっている。社会に内在する孤独・孤立の問題に対し、令和6年4月に「孤独・孤立対策推進法」が施行された。本会議を「宮城県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」とし

でも位置付け、取組を推進していく。地方公共団体における孤独・孤立対策の推進体制として、県では宮城県孤独・孤立対策庁内連絡会議を設置し、部局を横断する庁内連携体制の構築を進めている。市町村では、当事者への具体の支援内容について協議を行う地域協議会の設置を検討いただきたい。



宮城県保健福祉部社会福祉課 課長 相原 幹司氏

基調講演

神奈川県座間市福祉部の林氏から「社会的孤立の実態と地域共生社会の実現に向けてできること」と題して、基調講演をいただきました。

主な内容

林 星一氏

平成27年4月から生活困窮者自立支援法が施行されたが、当初は誰を対象に何をすれば良いか分からなかった。初めに庁内連携による課題解決の成功



神奈川県座間市福祉部 参事兼社会福祉課長 林 星一氏

事例報告

県内で地域共生社会の実現につながる取組を実践している2団体に御報告いただき、林氏に各団体の活動の意義や今後の活動への期待などについて、コメントをいただきました。

主な発表内容 ①

昆野 美津子氏

2018年に自治会主催で地域食堂を開始し、2020年に「だんらんかぞく」として独立するも、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されていた。そのような中、活動を続けたいという思いがあり、ひとり親世帯や困窮世帯を対象にし、形を変えて活動を継続している。地域食堂を始めたいきっかけは、こども食堂立ち上げ講座に参加した際に、



だんらんかぞく 会長 昆野 美津子氏

主な発表内容 ②

北郷 正之氏

川崎町社会福祉協議会は他の社会福祉協議会（以下「社協という。」）と比べて、高校生とのつながりが少ないことに気が付いた。そんな中、隣接している柴田農林高等学校川崎校の先生と話をする機会があり、令和元年にボランティア部による「デイサービスセンター」でのボランティア活動が始まった。この活動を町内の住民に広げること、交流が増え、地域を盛り上げていくことにつながると思い、宮城県社協で行っている地域指定福祉教育推進事業を活用することを決めた。

主な活動として、町内の社会福祉法人の施設利用者を対象に寄付で頂いた衣類を活用した「無料の洋服屋さん」を企画

し、高校生と一緒に洋服を選ぶことで会話が生まれるなど、施設利用者との交流を行っている。他にも、施設の運動会や合同避難訓練・炊き出し訓練などに、町内の施設やボランティア友の会、高校生が参加しており、平時からのつながりを作るきっかけになっている。この事業の期間（3年間）が終了した後もつながりを継続し、さらに範囲を広げた活動を行うように行政やNPO法人を加えた実行委員会を立ち上げた。今後、この活動を通じて川崎町に住んでいて良かったと思えるような地域づくりにつなげていきたい。

今後、本会では本会議を通じて、様々な主体による地域共生社会の実現に向けた取組を共有することで、県内におけるこれらの取組がさらに活性化するように努めていきます。



社会福祉法人川崎町社会福祉協議会 地域福祉係長兼福祉活動専門員 北郷 正之氏

